

## 授業研究Ⅱ 「保育内容総論」

— 就労意識と授業態度との関連を考察 —

古 橋 紗 人 子

Research on Teaching. II

— Through Students' Awareness of Working, Job Hunting, and  
Their Behavior in a Class of Contents of Childcare —

Satoko Furuhashi

### 1. は じ め に

本研究は、全国保育士養成協議会第51回研究大会において、口頭発表をした先行研究「保育士養成に関する授業研究—「乳児保育」「保育内容総論」「保育学」との比較から—を基にしてキーワードを保育内容総論・乳児保育・就労意識・授業態度とした継続研究である。

授業研究の視点に就労意識を導入した理由は、筆者は学務を学生支援委員会に属し、就職支援担当者として実学教育の成果が就労意識・就職活動につながると日頃から強く意識していることに関係する。保育現場で信頼される保育者（保育士・幼稚園教諭の両方を含む）を養成するための授業、教育の在り方を模索するなかで、2004（平成16）年、厚生労働省実施の「若年者就労能力に関する実態調査」は、本研究のきっかけとなったのである。

「若年者就労能力に関する実態調査」は、個々の能力によって高まる採用の可能性を定量化した初めての实態調査とあり、就労形態別にみた過去の就労意識・就職活動の項目には、○働くことを意識する時期が早いほど、現在の就労形態は安定。○進学時点の就労意欲が明確なほど、現在の就労形態は安定。○就職活動に熱心なほど、現在の就労形態は安定。と結果が出ている。なかでも最初の結果である、働くことを意識する時期が早いほど、現在の就労形態は安定。について特に注目をした。幼児教育保育学科（以下幼教とする）の学生は、保育所や幼稚園などで保育者として働くことを意識する時期が総じて早い。その根拠には、入学試験の面接において、幼教への志望理由を述べる時、「幼児期や小中学生の頃から保育所や幼稚園の先生になりたいと思っていたから」と多数が答える実態である。また、「保育内容総論」「乳児保育」の授業中に実施した「保育者を目指した時期」を調査した結果もほぼ同様であった。

「保育内容総論」の授業研究をするに当たり、保育士養成を行っているという責任の自覚につ

いて、2012（平成24）年の保育士養成資料集第56号「指定保育士養成施設教員の実態調査」<sup>1)</sup> 報告書Ⅱを参考にした。養成教育者の専門性については、保育士養成教育そのものを研究、検証の必要がある。保育士養成施設の教科担当資格については、平成15年12月の厚生労働省・雇用均等・児童家庭局通知に明記されているが、科目ごとの規定はない。資格としては、教科担当教員は、次のいずれかに該当する者であって教育の能力があると認められた者であること。（ア）博士又は修士の学位を有し、研究上の業績のある者（イ）研究上の業績が（ア）に掲げる者に準ずると認められる者（ウ）教育上、学問上の業績ある教育経験者（エ）学術技能に秀でた者（オ）児童福祉事業に関し特に業績のある者となっている。

一方、社会福祉士養成の場合は、一定期間以上の実務経験あるいは教授内容に関する研修を受けなければ養成の授業を教えられないなど、必須要件が明確に整備され、介護福祉士や看護師の養成教育においても実務経験規定があるが、保育士養成にはない。この授業研究対象科目の「保育内容総論」「乳児保育」を担当者三名の教員は、実務経験を積んだ立場から考察をする。

## 2. 研究の目的と方法

保育士資格取得のための必須科目である「乳児保育」と、特に幼稚園教諭・保育士資格取得のため必須科目である「保育内容総論」にウエイトをおき、「就労意識」と「授業態度」との関連を探る。演習授業を通して学生の質的な変容への可能性を追求することが目的である。

方法は、「保育内容総論」の授業中に紙面質問形式の意識調査「幼教への進学理由」「授業内容に関する関心度」「保育者を目指した時期」「保育者を目指す理由」を実施。「乳児保育」では同様の方法で「乳児保育に関する意識調査」「現在の就職状況」「就職に対する入学当時の意識」の8つの調査結果を分析する。また、「保育内容総論」「乳児保育」の授業状況の共通点と相違点を明らかにする。「保育内容総論」の「授業態度」については、他の科目からも情報も得て、比較検討をする。

## 3. 2 教科に関する比較

### 1) 授業状況・授業内容の共通点と相違点

授業状況での共通点は、「乳児保育」「保育内容総論」とも、表1のように国家資格取得のための必須科目であり、授業形態は演習科目である。担当教員については、筆者が両科目とも担当し、他に別の教員と2名で行うものである。両科目ともコラボレーション形式で行う授業である。

相違点は、履修期間と履修時期である。1回生前期の「保育内容総論」と2回生通年の「乳児保育」は、内容による必然性から履修時期には違いが生じる。「乳児保育」は、専門実践演習であることに比べ、「保育内容総論」は、保育の基礎ともいうべき、「保育内容5領域」や「保育の

表1 2科目の授業状況

科目名	履修時期	取得する資格免許	教 員	テ キ ス ト
乳児保育Ⅰ・Ⅱ	2年生通年	保育士資格	古 橋 安 井	「赤ちゃんから学ぶ乳児 保育の実践力」
保育内容総論	1年生前期	幼稚園教諭免許 保育士資格	古 橋 前 川	「おもしろく簡潔に学ぶ —保育内容総論」

表2 「乳児保育」に関する意識調査

授業内容	授業後の意識				合計
	難しい	為なる	楽しい	印象薄	
赤ちゃんからのシグナル（脳科学）	52	63	13	0	128
母子関係について（愛着の形成）	29	75	27	1	132
命を預かるとは…（健康と安全）	38	75	13	2	128
赤ちゃんにも教育？（養護と教育）	41	66	17	5	129
合 計	160	279	70	8	517

目標「子どもの発達」「保育の内容」などの言葉の意味を理解した上で、総合的に関連付けて学ぶ科目である。入学後出来るだけ早い時期に学び保育への扉を開く役割があると考え。

保育所保育指針では保育内容は、「養護に関わるねらい及び内容」と「教育に関わるねらい及び内容」の両面から示されているが、「保育内容総論」は、教育に関する領域である。また、「保育内容5領域」は、保育者が子どもの発達をとらえる視点として5つに区分されており、この5領域が意味するものを学生が理解しなければならない。「領域」とは、小学校の教科のように独立して扱われたり、特定の活動を示すものではない。子どもが経験を積み重ねていく姿を様々な側面からとらえて、総合的に保育していくことが大切<sup>2)</sup>である。

なお、領域のことを、シラバスに掲げる授業科目名としては「保育内容〇〇」と書くことが通常である。本学では、1回生前後に「保育内容環境」「保育内容言葉」を履修し、後期に「保育内容健康」「保育内容人間関係」「保育内容表現」を履修する。

## 2) 「乳児保育」「保育内容総論」に対する学生の意識の比較

表2は、「乳児保育Ⅰ」の授業内容に関する学生の意識調査であり、先行研究<sup>3)</sup>を基に作成した表である。2回生前後に授業内容の難易度に関する調査結果であるが、合計数が調査人数119名より多くなっているのは、複数回答をした学生がいたからである。内容ごとに1つ〇を付けるよう質問紙には記述したが、質問紙回収時に学生からどうしても複数回答したい内容があったので2つ付けたと複数の学生が申し出た為、合計数が合わない結果となった。「脳科学」を例にす



ると、「難しい」に1番多く○をしたが、「為になる」や「楽しい」とも答えた学生は多い。「印象が薄い」と答えた学生は0であり、難しいがインパクトの強い内容と推察できる。「愛着の形成」では、「為になる」「楽しい」学生が多く、「難しい」と感じた学生は1番少ない。「愛着の形成」の授業は、テキスト<sup>2)</sup>「お母さんは安全基地」の見出しとイラストを参考にして、A4サイズの厚紙に学生オリジナルの見出しやイラストを描き色ぬりをする授業である。

「保育内容総論」では、「保育内容5領域」について、表3のように体験型授業を通して強く関心を持った保育内容についての意識調査を行った。調査の対象は、159名であるが、いずれの保育内容においても合計数を満たしていない。解答欄には、無記入も多数あり正確さを欠く調査結果となった。表2の「乳児保育Ⅰ」では、複数回答した学生が多数いたため合計数が多く、やはり正確さは欠く結果であるが、積極的に考えると複数回答となった「乳児保育」と、○を書かない欄がいくつかあり、その理由は伝わらない「保育内容総論」には消極的ゆえの数字と解釈するとは大きい違いがある。

ここで、表3の根拠と考えられる「保育内容総論」での授業態度の実際を記述する。「保育内容健康」では、朝の出席調べを取り上げた。出席調べの目的には、保育所では厨房へ給食を食べる子どもの人数を知らせるデータ作りや、出席簿への記録があるが、「保育内容健康」の領域に視点を置いて保育と考えると、子どもの健康観察の場である。子どもの返事は「はい」以外に「元気です」「お腹がちょっと痛かったです」「ごはん いっぱい食べてきました」など子どもから自然に気楽に言える雰囲気醸し出される保育が望ましい。また、その時、クラスの人気絵本が「からすのパンやさん<sup>4)</sup>」であれば、「からすになって、返事してみようか?」「○○ちゃんは、レモンちゃんのお返事ね!」「△△くんは、カーカー新聞の特派員?げんきね…」など語りかけることにより、「保育内容言葉」「保育内容表現」「保育内容人間関係」とも総合的に結び付く保育の実際を理解させる。学生が子ども役や保育者役になって演じる授業であるが、実習や保育者として就職したら自分もしてみようとの関心について調べたが結果は「強く関心を持った」と「少し関心を持った」が、ほぼ同数であった。

「イス取り」ゲームでは「少し思う」が最も多く、「強く関心を持った」は最下位である。「イス取り」ゲームのおもしろさは、イスの周りを歩いたり走ったりしている時に、突然ピアノが止まると、あわててイスめがけて座りに行く。座れば安堵するが、座れなければ気持ちを切り変えて友だちを応援する。スリルと意外性を楽しむゲームだが、学生は筆者のピアノが4部音符から8分音符さらに16分音符、3連符や符点を加えるスキップなど速度やリズムに変化を付けても、イスの近くをゆっくり歩いている。促されて少し早く歩く程度であり、終始小さい輪のままであった。この授業の結果が、「強く関心を持った」は最下位となっている。一方「絵本の読み聞かせや手遊び・ピアノ」は、グループごとに学生が絵本を読んだり、手遊びをする授業である。ここでのピアノは簡単なりトミックであり、筆者のピアノに合わせて全員が同じ動きをする

表3 演習後の保育内容に対する関心意識

項目 \ 意識	強く思う	少し思う	思わない	合 計
健康観察の仕方	73	72	3	148
イス取りゲーム	40	96	7	143
絵本読み聞かせ	104	43	6	153
手遊び・ピアノ	114	38	3	155
合 計	331	249	19	599

表4 幼教への進学理由

項目 \ 意識	強く思う	少し思う	思わない	合 計
知識技術の習得	80	31	6	117
社会的な必要性	51	52	6	109
人間的成長期待	41	56	5	102
資格が欲しい	92	20	3	115
他の道が探せず	8	28	54	90
何となく出来る…	20	65	18	103
合 計	292	252	92	536

授業には、「関心を強く持った」学生が114名と最高に多い。

「乳児保育」と「保育内容総論」を比較すると、「乳児保育」での「為になる」や「難しいが楽しい」と、積極的に解答した態度が多いことと、1回生の「保育内容総論」での体験型授業後の意識調査の結果では、「少し興味を持った」数の多さから消極的態度であることが明確となった。

#### 4. 進学理由と「保育内容総論」の授業態度

##### 1) 進学理由と演習授業への意識調査

平成20年保育所保育指針の告示化に伴い保育士養成課程は改正され、平成23年度入学生より、見直しされた新カリキュラムでの授業が行われている。保育内容・方法に関する科目として「保育内容総論」は新たに加わった演習形態の科目である。改正前は「保育原理Ⅱ」の中で著者が担当したが演習となった。演習とは学生自らが演じ参加する能動的授業のことである。授業態度が消極的で受身では身につかないことは、オリエンテーションの段階で説明をしている。期末試験はしないことも伝え、受講態度が評価につながるので積極的態度で臨むよう折に触れ注意喚起は促す。また、子ども理解や遊びの実際に関する内容が多いことから、入学までの子ども体験調査<sup>5)</sup>や幼教を選択した理由に関する意識を把握しておきたい。保育者養成校へ進学してきたこと自体

がすでに、保育職・教育職等への就職を意識していると通常考える。

しかし、表4の幼教への進学理由に関する意識調査の結果は、「資格が欲しい」「知識技術の習得」を「強く思う」が1, 2位である。「社会的必要」や「人間的成長」の項目は、保育者を目指す者として筆者が期待する項目であるが「強く思う」「少し思う」ともに50%前後のほぼ同数である。また、「他の道が探せず」を「強く思った」「少し思った」の計は36名。「何となく出来る」を「強く思った」「少し思った」の計は85名。「他の道が探せず」と「何となく出来ると思って」の合計は121名である。複数回答ではあるが、159名中、121名が幼教への意識は曖昧模様の状態で入学したことが明らかである。

## 2) 若年者の就職能力と授業への取り組みの関連

表6は、保育者を目指した時期を調査したものである。この結果では男女とも、中高校生が突出して多く特に男子は多い。しかし、入学して保育の専門教育を受けると進路へ迷いが出る学生がいる。迷いの理由を調査した結果が表7である。保育者への迷いのNO1は、「想像より大変な仕事」とわかったことであり、次いで保育者への適性に疑問を持ったことである。

表8は、Ⅱ回生対象に7月中旬に「乳児保育Ⅱ」の授業中に実施したものであり、就職に対す

表5 「保育内容5領域」への興味に対する意識

項目	意識				合計
	強く思う	少し思う	思わない		
保育内容 健康	39	96	11		146
保育内容 人間関係	56	81	13		150
保育内容 環境	58	73	16		147
保育内容 言葉	59	78	15		152
保育内容 表現	68	70	12		150
合計	280	398	67		745

表6 保育者を目指した時期

項目	意識			計
	男子	女子		
幼児期	0	13		13
小学生	0	37		37
中高生	8	54		62
入学前	0	10		10
その他	1	3		4
計	9	117		126

表7 保育者への迷いのある学生の理由

項目	意識			計
	男子	女子		
何となく受験した	0	2		2
想像より大変な仕事	2	33		35
自分には向いてない	1	24		25
その他	2	3		5
計	5	62		67

表8 就職状況

項目	意識			計
	男子	女子		
決定	0	6		6
結果待っている	0	10		10
見学には行った	0	8		8
求人待ってる	3	24		27
活動していない	4	51		55
その他	2	20		22
計	9	119		128



表9 就職に対する入学当時の意識と現在の状況

		7 月 末 現 在 の 就 職 状 況						
		決定	結果待ち	見学した	求人待ち	活動なし	迷いあり	合計
希望した時期	幼児期	0	1	0	1	7	4	13
	小学生	2	4	4	10	10	7	37
	中高生	2	5	3	14	21	9	54
	入学前	0	0	0	1	6	1	8
	その他	2	0	0	1	0	0	3
	合 計	6	10	7	27	44	21	115

る意識と現状を調べたものである。「活動なし」が最も多く、求人待ちとその他が続いている。結果待ちの10名は、公立の1次試験の結果待ちである。

表9は、1回生対象の保育者を目指した時期を調べた表6と、2回生対象の就職状況を調べた表8をクロス集計したものである。この表9から明らかになった点は、「進学時点の就労意欲が明確なほど、現在の就労形態は安定する」については、表3の意識調査の結果、「何となく出来ると思って」入学してきた学生は、このままでは安定した就労形態への就職は困難となる。

表9の「決定」した学生の中に、希望した時期が「その他」の者が2名いるが社会人入学生である。結果待ちの10名は、公務員（保育職）試験を受験した学生であり、いずれも保育者を希望した時期は幼児期～中高生と早い時期から就労を目指している。一方、115名中の44名が就職活動をしていない、迷っている21名を加えると65名の半数以上である。

## 5. 考 察

「保育内容総論」と「乳児保育」の授業状況には共通点が多いが、授業態度には大差がある。その原因はプラスに考えれば、「乳児保育Ⅱ」での積極的な授業態度は、1年半の専門教育の成果であり、保育者として働く就労意識が強化され授業態度に反映されたといえよう。危惧する面は、「保育内容総論」の「イス取り」ゲームのような消極的な授業態度である。著者は、「保育内容総論」を今年初めて担当したので、前年度と比較することは不可能である。しかし、毎年「しっぽ取り」ゲームを指導している体育教師から同じような情報を得た。縄跳びの縄を50cmほどに折り曲げて「しっぽ」に見立て、ズボンの腰ゴムやベルトにさし込む。大学生が体育館ですると、さぞダイナミックなゲームが展開されるであろうと想像するが、今年の1回生はほとんどの学生が、壁に背中を向けて両手を広げ、人が近づかないように牽制の構えで、その場から動かないのでゲームが成立しない。さらに、縄を短くしてズボンの奥の方まで入れ、しっぽが見えないくらいにする学生もいて、しっぽを取られない守りの体勢の学生ばかりであったとのこと。

授業研究Ⅱ「保育内容総論」

学生のこのような消極的態度の原因は、周りを気にしすぎて動けないのか、体を活発に動かしてゲームの楽しさを共有する体験が少ないのか、子どものように遊ぶ（動く）ことにテレが先行

表10 2012年度後期「乳児保育Ⅱ」授業計画（古橋担当）

回数	月・日・曜日	時限クラス	教室	授業内容
1	9・25・火	1・CD	225	合同 オリエンテーション
	9・26・水	4・AB	225	合同 オリエンテーション
2	10・2・火	1・C	211	食事・排泄の介助の実際
	10・3・水	4・A	211	食事・排泄の介助の実際
	10・9・火	1・D	211	食事・排泄の介助の実際
	10・10・水	4・B	211	食事・排泄の介助の実際
4	10・16・火	1・C	211	睡眠・衣生活の介助の実際
	10・17・水	4・A	211	睡眠・衣生活の介助の実際
	10・23・火	1・D	211	睡眠・衣生活の介助の実際
	10・24・水	4・B	211	睡眠・衣生活の介助の実際
6	10・30・火	1・C	211	沐浴の実際
	10・31・水	4・A	211	沐浴の実際
	11・6・火	1・D	211	沐浴の実際
	11・7・水	4・B	211	沐浴の実際
8	11・13・火	1・C	211	0, 1, 2歳児の見通しのために
	11・14・水	4・A	211	0, 1, 2歳児の見通しのために
	11・20・火	1・D	211	0, 1, 2歳児の見通しのために
	11・21・水	4・B	211	0, 1, 2歳児の見通しのために
10	11・27・火	1・C	211	連絡帳の書き方
	11・28・水	4・A	211	連絡帳の書き方
	12・4・火	1・D	211	連絡帳の書き方
	12・5・水	4・B	211	連絡帳の書き方
12	12・12・水	4・A	211	個別指導計画の作成
	12・18・火	1・D	211	個別指導計画の作成
	1・8・火	1・C	211	個別指導計画の作成
	1・9・水	4・B	211	個別指導計画の作成
14	1・15・火	1・CD	225	合同 後期授業のまとめ
	1・16・水	4・AB	225	合同 後期授業のまとめ
15	1・22・火	1・CD	225	VTR「乳児保育者としての心得」
	1・23・水	4・AB	225	VTR「乳児保育者としての心得」



して体験学習の目的理解、保育者をめざす自覚の欠如などが考えられる。今後検証が必要である。

保育者として働くことを意識する時期は早かった学生のなかにも、幼教の授業は、「保育内容総論」や「乳児保育」のように演習科目が多く、事前学習や課題提出のレポートなどの量も相当あるので、勉強困難者や保育者は不適性かと自信を失う学生が発生している。進学時点で就労意欲は明確であっても、保育の現実を甘く捉えていると、レベルの高い専門教育や保育教育実習の事前指導の重要性など伝わりにくいと考えられる。子ども理解についても安直なイメージを持ったままの学生は、保育者への向上心も乏しく消極的な授業態度と関連する。

「保育内容総論」での体験型授業の消極的態度に対して、質的変容を期待するには、保育の楽しさや、やりがいのある仕事内容を具体的に伝えることも必要であろう。同時に専門職としての最新の専門知識・適切な観察力・愛情豊かな心で関わる技術を身につける必要も強調もしなければならぬ。更に保育理念、保育哲学を培うことで志の高い保育者となり、多少の問題には動揺しないプロフェッショナルとなる。また、実務経験を積んだ立場から、質の高い保育者養成の入口としては、保育者の将来を見通しを持って語り、指導する。保育・教育に特效薬はないが、保育者の社会的役割を考えると、今の学びがいかに必要かを根気強く教育することにつきると考える。

「若年者就労能力に関する実態調査」での就労を意識する時期や就職活動の時期などと就労形態の安定については、入学前から「保育者を目指す」学生の意識を同等と捉えることには疑問がある。就職活動の時期においても9、10月頃から求人が集中する実態を考えると、必ずしも早期に取り組むことがよいとは限らない。幼教独自の現実を再確認するに至った。

## 6. お わ り に

現代社会の一つの現象として、乳幼児期（胎児期）から長時間のテレビ・ビデオ視聴や、テレビゲーム・多機能型携帯電話の普及過剰の中で育ており、学生も体や心を震わすほどの感動的な実体験は乏しいまま大学生となることが多く、保育者をめざして幼教へ入学してくる学生も多数を占めていると考えられる。表10は「乳児保育Ⅱ」の授業計画であるが、筆者の担当部分を抜粋し偶数回で表したものである。8回目の0、1、2歳児保育の見通しのために、6つのグループでテーマを調べて討議する内容について触れることとする。

教科書にはない内容だが、「2歳までのテレビ視聴」に対するテーマも入れてある。乳幼児期のテレビ視聴の弊害を調べたグループは、保護者への伝え方を討議する。そこへ筆者が加わると、発言は少なく促されると「そんなの無理」「保護者に言えない」「自分の子どもには出来るだけ気を付ける」「テレビがないと間が持たない」「子どもとの時間の過ごし方がわからない」なかには、「実習園でも、朝夕2時間以上見せていた」など、ポツポツ言葉が返ってくるが、学生自身の実生活からもテレビのない生活は考えにくいのかもしれない。このテーマを出した時点で「エー」と、トーンこそ低いが奇声を発して驚きを隠さない学生もいたのである。保育者は、

「子どもの最善の利益」<sup>6)</sup>のために保護者に指導をする立場である。Children Firstの思想で、子どもの幸せのための代弁者になり、「なぜテレビが望ましくないか」根拠となる考え方をしっかり持たなければ、テレビ漬けの連鎖を止めることはできない。子どもの言葉の発達はますます遅れ、人の表情や周りの状況を読み取る人間力の低い子どもが増加する。子どもはやがて大人になり、語彙の少ない稚拙な感情表現をする人が増えると予想するのは容易である。

このような日本社会の危機を誰が救うのか。意識ある教育者や乳幼児に長時間接する保育者も責任の自覚を持ちたいものである。昭和40年代には、ほぼ全家庭にテレビが普及し、子どもへの影響を危惧する親たちは、「子どもに生の劇や音楽に触れる機会を与えたい」との願いから、親子で鑑賞する「親子劇場」が全国で展開された。だが、その後も親に余程の意識がないと「テレビが子守り」する生活に流れやすく、学生の多くはその影響を受けて入学してきていると考えられる。保育士養成資料集、保育士養成の課題には、学生の変貌の原因が何であろうと、金田は引き受けた（入学させた）以上は、養成施設教員の責任であり、学生の実態に合わせた教育の方法を教員自身が探求していくことが求められると指摘する<sup>7)</sup>。実効性の高いFDの必要性を述べる前文には、入学してくる学生の基礎知識不足、学習意欲喪失、不登校等の状態はもう例外的ことではなく“常態”であるという認識のもと、前向きに対応することが求められると考える。と、ある。

筆者の稚拙な授業研究など足元にも及ばないが、前向きに己を喚起して、「イス取り」ゲームの学生の態度と、体育教師の「しっぽ取り」ゲームの情報を共有することで「協働」という言葉を一筋の光と受け止め、教員相互の連携、科目間の有機的な結びつきによる相乗効果を期待し、どのように構築していくかが今後の課題と考える。

#### 引用・参考文献

- 1) 社団法人全国保育士養成協議会専門委員会平成23年度課題研究保育士養成資料集第56号「指定保育士養成施設教員の実態に関する調査」報告書Ⅱ—調査結果からの展開— p166
- 2) 厚生労働省編 保育所保育指針解説書 pp65-66 フレーベル館 2008
- 3) 古橋紗人子, 安井恵子, 前川頼子, 坂本容子「保育士養成に関する授業研究—乳児保育・保育内容総論・保育学との比較から」全国保育士養成協議会第51回研究論文集 pp104-105 2012
- 4) 加古里子「からすのパンやさん」偕成社 1973初版
- 5) 古橋紗人子, 安井恵子「乳児保育」の授業研究Ⅰ—予習重視のグループ討議と講義内容—滋賀短期大学研究紀要第37号 2012
- 6) 古橋紗人子 子どもの最善の利益の確保とは「最新 保育原理—わかりやすく保育の本質に迫る—」1章 - 3節 保育出版社 2012 pp17-19
- 7) 金田利子・音田忠男 「保育士養成課程における発達と教育の視点から見たFDの課題」保育士養成教育29号 2011 pp93-94